

マテリアリティに対する指標・目標

KOBELCOグループの マテリアリティ		指標・目標		
		指標	目標	実績 (20年度)
グリーン社会への 貢献 	気候変動対応	①生産プロセスにおけるCO ₂ 削減	2030年度: 30~40% 削減 (2013年度対比) 2050年度:カーボンニュートラルへの挑戦	21% 削減
		②技術・製品・サービスによるCO ₂ 排出削減貢献	2030年度: 6,100万t (うちMIDREX4,500 万t以上) 2050年度: 1億t以上	4,090万t
		③電力事業におけるCO ₂ 削減	2030年度: 石炭火力高効率化 USC以上 2050年度: カーボンニュートラルへの挑戦	—
	資源循環対応	④水のリサイクル率	95%以上を維持	95.9%
		⑤廃棄物の再資源化率	主要3品目の再資源化 ^{※1} 2025年度: 99%	98.7%
安全・安心な まちづくり・ ものづくりへの貢献 	「3E+S」 ^{※2} の エネルギー供給	—	—	—
	ニーズに即した 素材・機械の提供	⑥ターゲットとする製品の製品構成	2025年度: 鋼材の「線条・ハイテン」比率52%	44%
	安全性と 生産性の向上	—	—	—
人と技術で繋ぐ 未来への ものづくり・業務変革 ソリューション提供 	デジタル化による ものづくり・業務変革 (DX)	⑦デジタル化プロジェクト件数	—	— ^{※3}
		⑧既存システム再構築進捗率	—	—
		⑨DX人材の育成人数	a.2023年度: 約500名 ^{※4} b.2023年度: 約140名 ^{※4}	a.35名 b.99名
	多様な知的資産の 融合と革新	⑩新規事業創出	2025年度: 複数の事業化TFが活動している状態 2030年度: 複数の事業化TFが事業を開始 (目指す収益規模10億円以上/件・年)	—
⑪博士号取得者数		—	177名	
多様な人材の 活躍推進 	ダイバーシティ& インクルージョン ^{※5}	⑫新卒採用女性比率	2023年度: a.総合職事務系50%以上 b.総合職技術系15%以上 c.基幹職技能系15%以上	a.34% b.16% c. 9%
		⑬女性管理職比率	2020年度比2倍	2.7%
		⑭障がい者雇用率	2.3%(法定雇用率)	2.34%
		⑮外国籍社員数	—	87人
		⑯育児のための特別休暇取得率 (男性社員)	2023年度: 100%	77.8%
		⑰10年未満離職率	15%未満	15.8%
	働き方変革	⑱時間外労働時間	—	16.6h (月・人)
		⑲年次有給休暇取得日数	平均15 日/年・人	11日
		⑳総実労働時間	2,000h/年未満	1,978h
		㉑社員意識調査の実施継続	—	継続中
人材育成	㉒社員研修の拡充	a. 総研修受講時間(延べ) b.1人当たり平均受講時間	a.210,948h b.18h	
持続的成長を 支える ガバナンスの追求 	コンプライアンス・ リスクマネジメント	㉓内部通報件数	—	112件
	人権尊重	㉔社員研修の拡充	— ^{※6}	—
	安全衛生	㉕休業災害度数率	0.10以下	0.24(暦年)
		㉖監督者教育の拡充	—	65名
	品質保証	㉗内部品質監査における 品質ガイドライン認定拠点率	2023年度品質監査対象拠点の70%	— ^{※7}
		㉘当社定義における試験・検査 設備の自動化率	— ^{※8}	—
		㉙お客様満足度調査の実施継続	—	継続中
コーポレート ガバナンス	㉚取締役会実効性の向上	—	継続中	

※1 主要3品目:スラグ、ダスト、スラッジ

※2 3E+S= Energy Security, Economic Efficiency, Environment + Safety

※3 2021年度より対象を精査しカウント開始

※4 a.ITエンジニアリスト(ITを活用し自部門の業務改革を自ら企画し推進する人) b.データサイエンティスト(高度なデータ分析を行うことができる人材)

※5 中核人材における多様性確保については、改訂CGコードへの対応に向け継続検討

※6 社員への人権研修の拡充、及び人権デューデリジェンスの実施方法を検討中

※7 2021年度の品質監査より品質ガイドラインの認定を開始

※8 中長期的な目標について、検討中